

考古遺跡の中広域動態からみた土地・景観利用の変遷史

野口淳・高田祐一・武内樹治

はじめに 文化財保護法（第95条）にもとづく埋蔵文化財保護行政の一環として整備と公開が要請される遺跡地図・台帳は、その網羅性から考古学ビッグデータのソースとなる（野口 2024）。関東平野西部、旧武蔵国西～南部の範囲について各自治体（東京都、埼玉県、神奈川県川崎市・横浜市）が公開している遺跡地図・台帳¹⁾をGISで解析可能なデータ化し、対象地域の4万年にわたる通時的な人類の活動、社会・環境の相互作用動態と土地利用変遷史について予察する。

データ概要 参照元より遺跡範囲の代表点位置情報と遺跡名、時代等の属性情報を取得、データベース化した。GitHub上の公開リポジトリから第三者も閲覧利用可能である²⁾。登録遺跡（地物）全体は図1・表1のとおり。本予稿段階では島嶼部を除く東京都全域、川崎市、埼玉県西部³⁾の12114件を利用している。時代区分、遺跡範囲と単位の詳細のデータ粒度の違いもあるが、全体傾向を把握するには十分である（野口 2021）

遺跡分布から見た土地利用の長期的動態 遺跡分布の中広域動態は、地形、地質、河川水系、および歴史的地域性により変化する。全体傾向として縄文時代は台地～丘陵～山地に広く分布し、弥生時代は荒川～多摩川～東京低地沿い、および多摩丘陵に集中する。古墳時代は多摩川中上流、秩父盆地等への開発領域の拡大を示す。奈良・平安時代は開発領域の拡大が山地へ及ぶが分布様態は縄文時代とは異なり特定の地形・河川水系に集中する。

地理空間情報としての遺跡地図データの有効性 関東山地西縁の弥生～奈良・平安時代遺跡分布を示す（図2、3）。水田稲作の導入は水源と耕作可能地形への指向の要因となり、技術変化と労働力の増加は開発範囲を拡張する。古代社会の成立、官衙・官道整備は丘陵地への生産遺跡の展開と流通経路上の遺跡分布をもたらす。どこに遺跡があるかだけでなく、前後する時期・時代との分布の「差分」から、生業経済、社会・政治構造に起因する土地開発・景観利用の中長期的動向を把握するとともに、異なる空間ス

ケール・単位で比較することで、広域動態としての「時代性」と、中域動態としての「地域性」を解明することが可能になる。

〈注〉

- 1) 東京都 <https://tokyo-iseki.metro.tokyo.lg.jp/>、埼玉県 <https://www.pref.saitama.lg.jp/isekimap/>、川崎市 <https://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000033878.html>、横浜市 <https://www.city.yokohama.lg.jp/yokohama/Portal>
- 2) <https://github.com/kotdijian/JASOSR>
- 3) 市部を含む入間郡、比企郡、秩父郡全域と大里郡のうち寄居町、旧花園町、旧川本町、熊谷市の荒川以南（旧江南町、大里町含む）。ただし川越市は未入力。
- 4) 図1～3使用データ：国土数値情報行政区画2024年、国土数値情報河川（ライン）、国土数値情報湖沼、国土地理院陰影起伏図。QGIS3.40.4により作成。
- 5) 本発表はJSPS科研費24K00142の成果である。

〈参考文献〉

- 野口淳 2021「考古学・文化財地理空間情報のオープンデータ化、整備と活用」『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用3』
<http://doi.org/10.24484/sitereports.90271-15056>
野口淳 2024「遺跡・埋蔵文化財包蔵地・遺跡地図」『日本考古学』58: 71-80

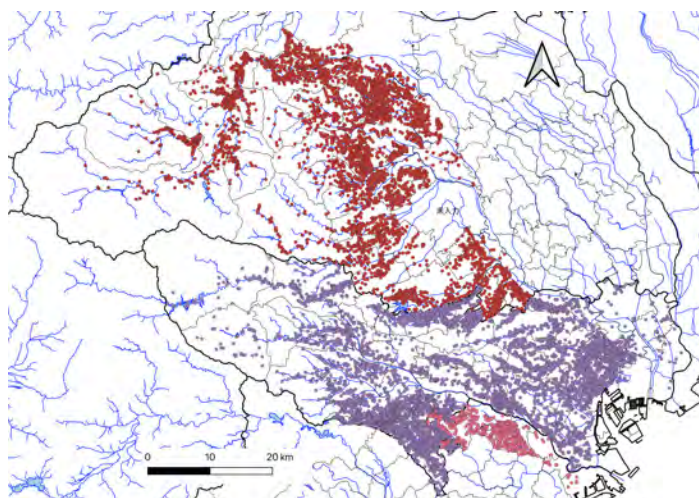


図1 登録遺跡全体分布図（2025年2月10日時点）

	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	近現代	不明	合計
東京都都区部	254	955	365	709	356	294	301	1305	37	30	2516
東京都多摩地区	441	2890	281	893	1349	1880	723	900	6	52	3934
川崎市	5	381	149	250	203	234	44	16	0	1	616
埼玉県入間郡	218	1163	132	443	404	632	289	165	3	13	1873
埼玉県比企郡	6	300	79	658	492	567	95	34	0	6	1423
埼玉県大里郡	24	517	46	518	314	499	126	111	0	2	716
埼玉県秩父郡	10	437	17	426	122	165	88	68	0	4	1036
合計	958	6643	1069	3897	3240	4271	1666	2599	46	108	12114

表1 登録遺跡一覧（2025年2月10日時点）

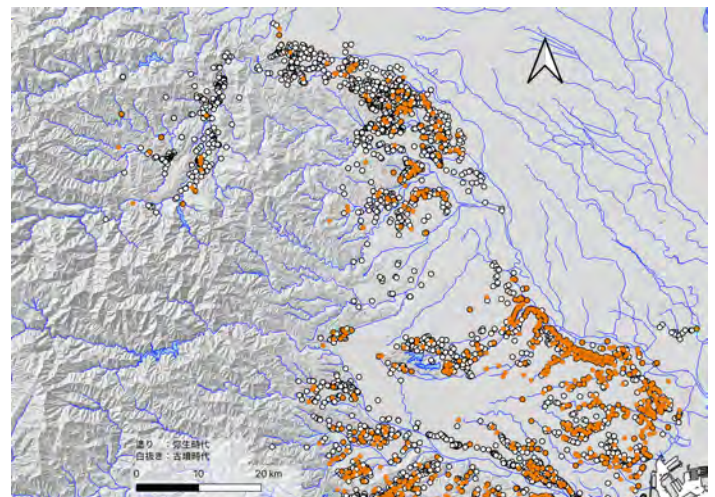


図2 弥生時代（塗り）、古墳時代（白抜き）遺跡分布

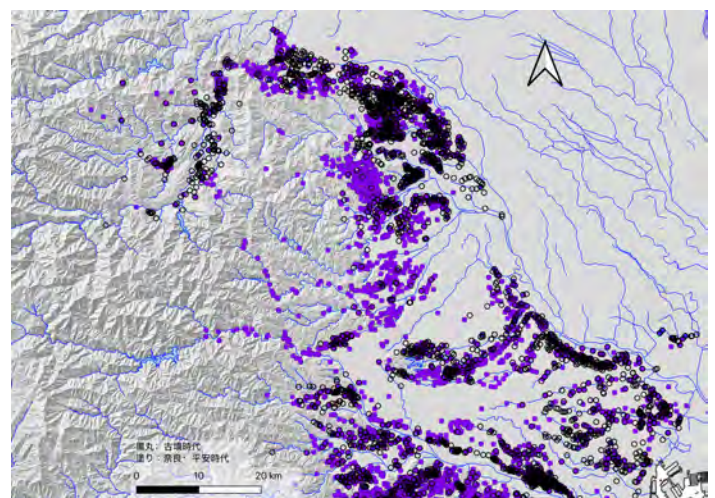


図3 古墳時代（黒丸）、奈良・平安時代（塗り）遺跡分布